月曜礼拝の法話

『呼びかけが聞こえたら』

　毎年春と秋には交通安全週間があります。みなさん交通ルールを守って、安全にすごしてくださいね。
　しかし、車はいつも必ず安全に走っているわけではありません。
　横断歩道を渡ろうとしているときに、近づいてきている車に気が付いていなかった人がいたら、「車が来てるよ！」と呼び掛けるでしょう。その声が聞こえたなら、あたりを見回して安全になってから歩き出すことができます。
　もし、呼びかけが聞こえなかったら、どうなるでしょう。危ないですね。事故が起きるかもしれません。聞こえていても「そんなの関係ない」なんて思っていたら、結局危ないですね。
　また、混雑しているお店の中で、一緒に来ていたお父さんお母さんと離れてしまったとき、みなさんはどうしますか。おうちの人がどこにいるか探すでしょう。しかし混雑しているお店ではたくさんの人がいるから、簡単におうちの人を見つけることはできません。そんなとき「こっちだよ」と呼んでもらったら、その声のする方を見ておうちの人を見つけることができるでしょう。
　もし呼びかけが聞こえなかったら、どんどん離れて行って、迷子になってしまいます。

　この前はいのちは最後は必ずほとけさまになっていきますとお話ししました。
それは、ほとけさまは、「あなたを必ずほとけさまにしますから」とはたらきつづけているからです。ずっと呼びかけられているわけです。
しかし、その呼びかけもこちらが聞いていなければ私に届いていることに気づきません。
呼びかけが聞こえたというのは、本当にうれしいありがたいことだと思います。